



Kawasaki city Area design meeting Forum

川崎市 地域デザイン会議 フォーラム

地域デザイン会議発 自分たちが住む地域づくりを考える



プログラム

第1部 (14:00-14:45)

1 開会挨拶 川崎市長 福田 紀彦

2 オープニングトーク



法政大学人間環境学部教授

小島 聡さん

20代から川崎市の市政や市民社会と実践的にかかわり、法政大学人間環境学部では、「持続可能な地域社会」をキーワードとして自治体政策や地域実践について論じる。長野県飯山市、横須賀市長井地区、香取市佐原地区、多摩川流域における地域実践も展開している。川崎市の「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定にも関わっている。

3 川崎市のコミュニティ施策について



川崎市市民文化局長

中村 茂

川崎生まれの川崎育ち。民間企業勤務を経て、1988年川崎市役所へ。2021年から現職。この間、参加と対話、現場主義を大切にしながら、自治基本条例、市民活動支援、コミュニティ施策、文化行政、環境まちづくりなどの事業に関わってきている。

4 「川崎市地域デザイン会議運営指針（案）」について

川崎市市民文化局コミュニティ推進部区政推進課長 和田 一晃

第2部 (15:00-17:00)

5 パネルディスカッション

地域デザイン会議に参加された方と「自分たちが住むまちを良くするために、どのように参加し行動するか」を考えます。

パネリスト

コメンテーター

ファシリテーター



黒江 乃理子さん

(川崎区地域デザイン会議に参加)

川崎区でダンススクールを運営しながら、ベトナム人留学生の地域活動への参加支援などを行う。さらに地域コミュニティづくりを目指し、2017年から子ども食堂「大家族ふるさと食堂」を運営している。



小川 じゅんさん

(宮前区地域デザイン会議に参加)

宮前区野川で空き家をリノベーションし、地域の人が集える「TIDA's house」を2019年にオープンする。地域デザイン会議をきっかけに宮前区役所市民広場を活用した地域住民の交流イベントを開催している。



小島 聡さん

法政大学人間環境学部教授



中村 茂

川崎市市民文化局長





川崎市のコミュニティ施策について

2024年3月16日 川崎市地域デザイン会議フォーラム



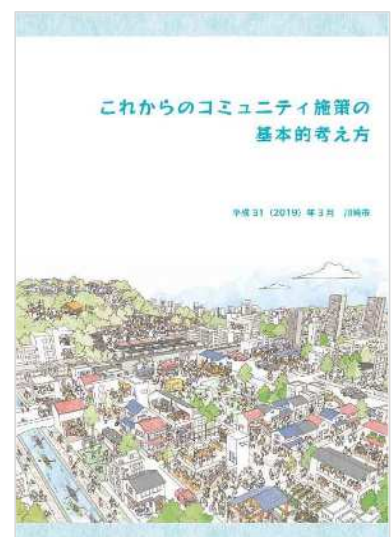
川崎市市民文化局長 中村 茂

1

暮らしを取り巻く環境の変化

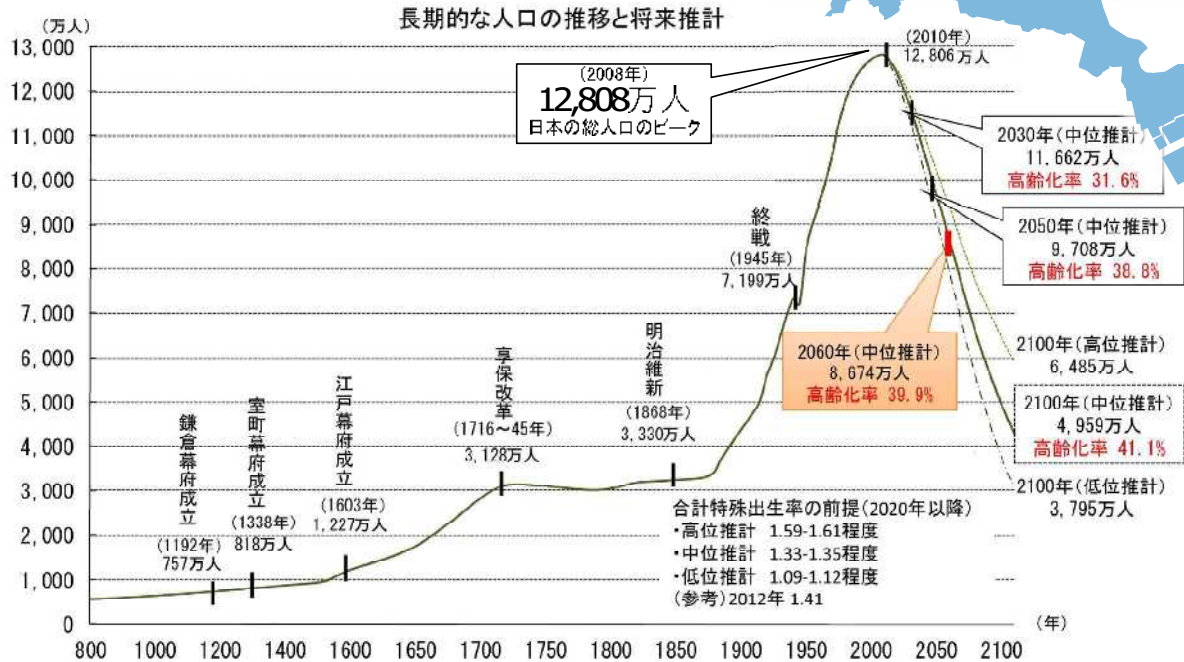
● 策定の背景

- ① 超高齢化と人口減少社会の到来
- ② 地域コミュニティの希薄化
～コミュニティデザインの行方～
- ③ 新たな公共サービスの模索
～揺らぐ公共概念と新たな公共空間の創造～
- ④ 新しい「豊かさ」
～ポスト成長時代における「豊かさ」とは～
- ⑤ 持続可能性への挑戦
～「サステイナブル・シティ」と政策統合～



2

◆超高齢化と人口減少社会の到来



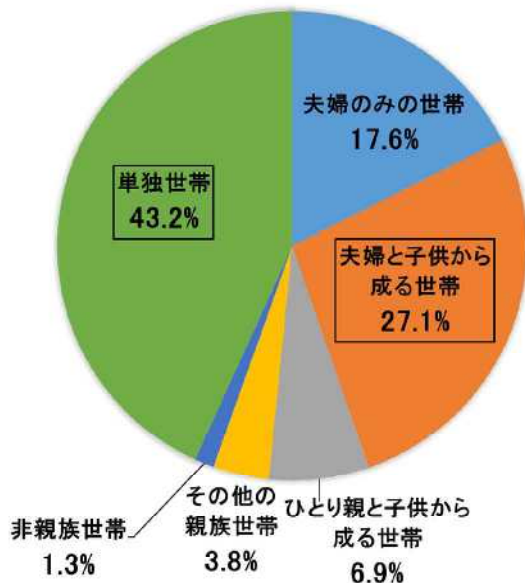
(備考)国土交通省「国土の長期展望」(2011年)をもとに作成。
 2010年以前の人口:総務省「国勢調査」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析」(1974年)
 それ以降の人口:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」

内閣府資料から 3

◆川崎市の世帯構成 増える「単独世帯」

(世帯数)

一般世帯数	夫婦のみの世帯	夫婦と子供から成る世帯	ひとり親と子供から成る世帯	その他の親族世帯	非親族世帯	単独世帯
681,701	119,855	184,855	47,026	26,211	9,106	294,648



■「夫婦と子供から成る世帯」の推移

・1985(昭和60)年 40.5%
 ↓
 ・2015(平成27)年 27.1%

■「単独世帯」の推移

・1985(昭和60)年 32.4%
 ↓
 ・2015(平成27)年 43.2%

逆転

※2015(平成27)年国勢調査

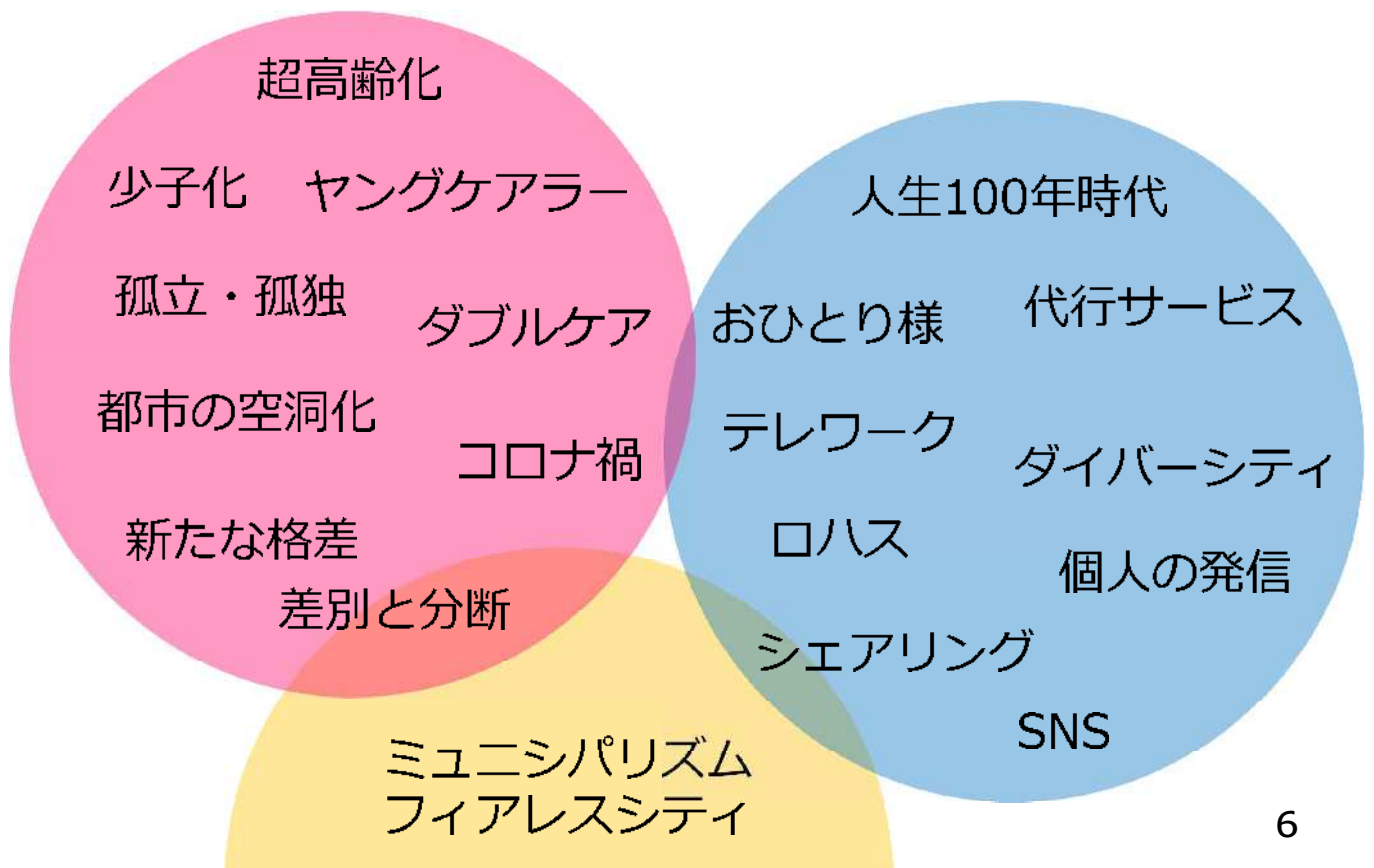
◆これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか



1970年代後半に、精神的豊かさを重視する人が物質的豊かさを重視する人が上回り、1979年以降、その差は年々拡大傾向にある（「厚生労働白書」から）

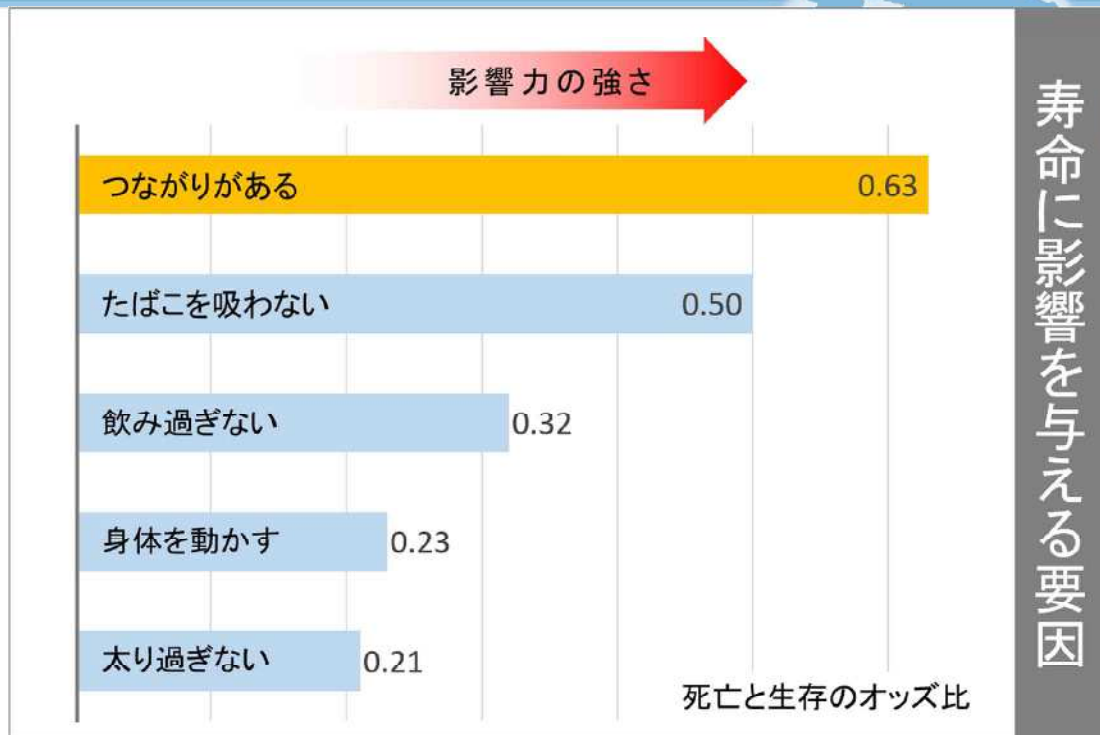
社会が複雑になっていく未来

様々な要素や価値観が混ざり合っていてこれからも複雑になり続ける。



◆「つながり」が最も寿命に影響する

KAWASAKI

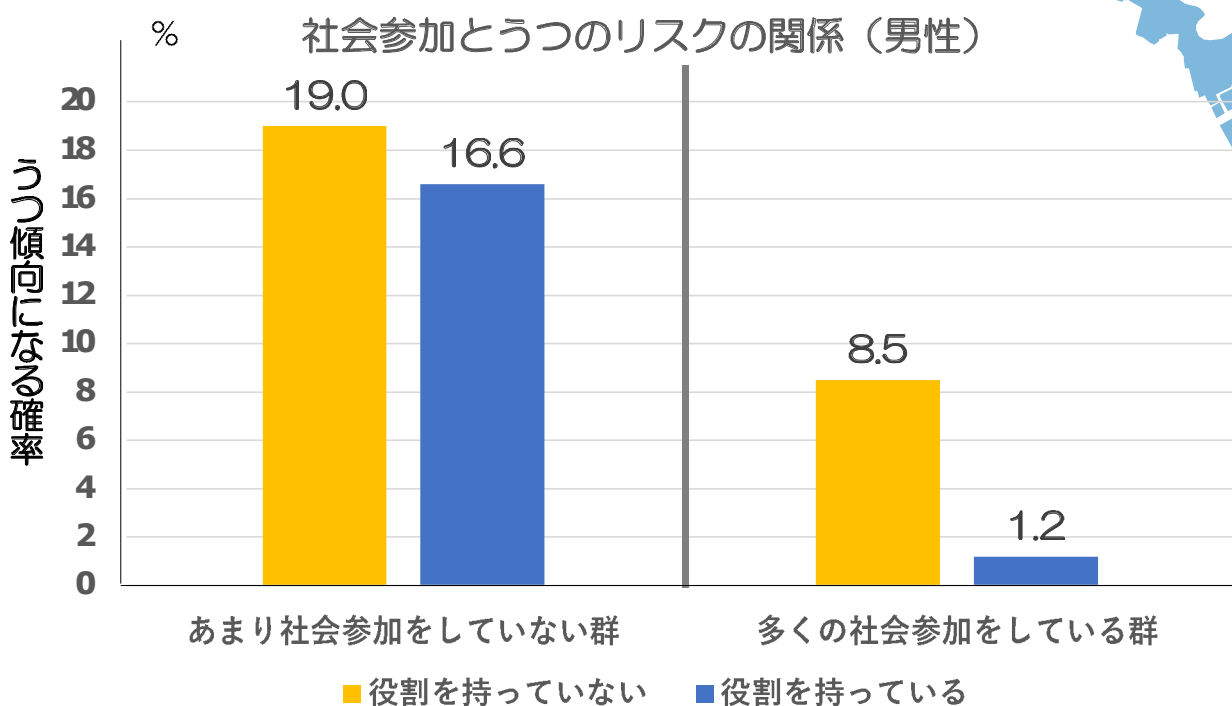


「友達の数で寿命は決まる」(石川善樹2014)を参考に作成

7

◆社会参加とうつ

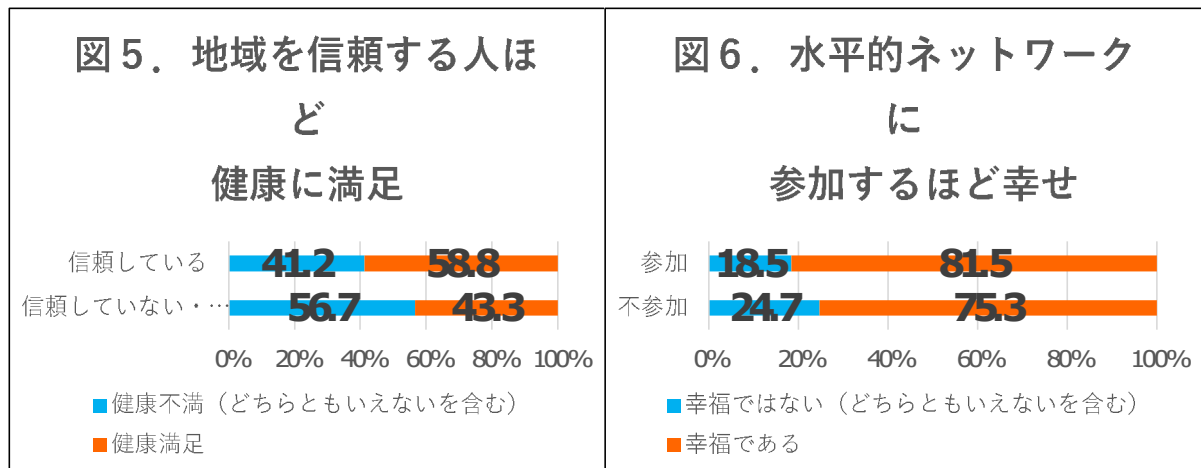
KAWASAKI



愛知老年学術評価研究 (三友福祉大学健康社会研究センター2003-2006) を加工して作成

8

川崎市の地域包括ケアシステムに関する市民意識・実態調査



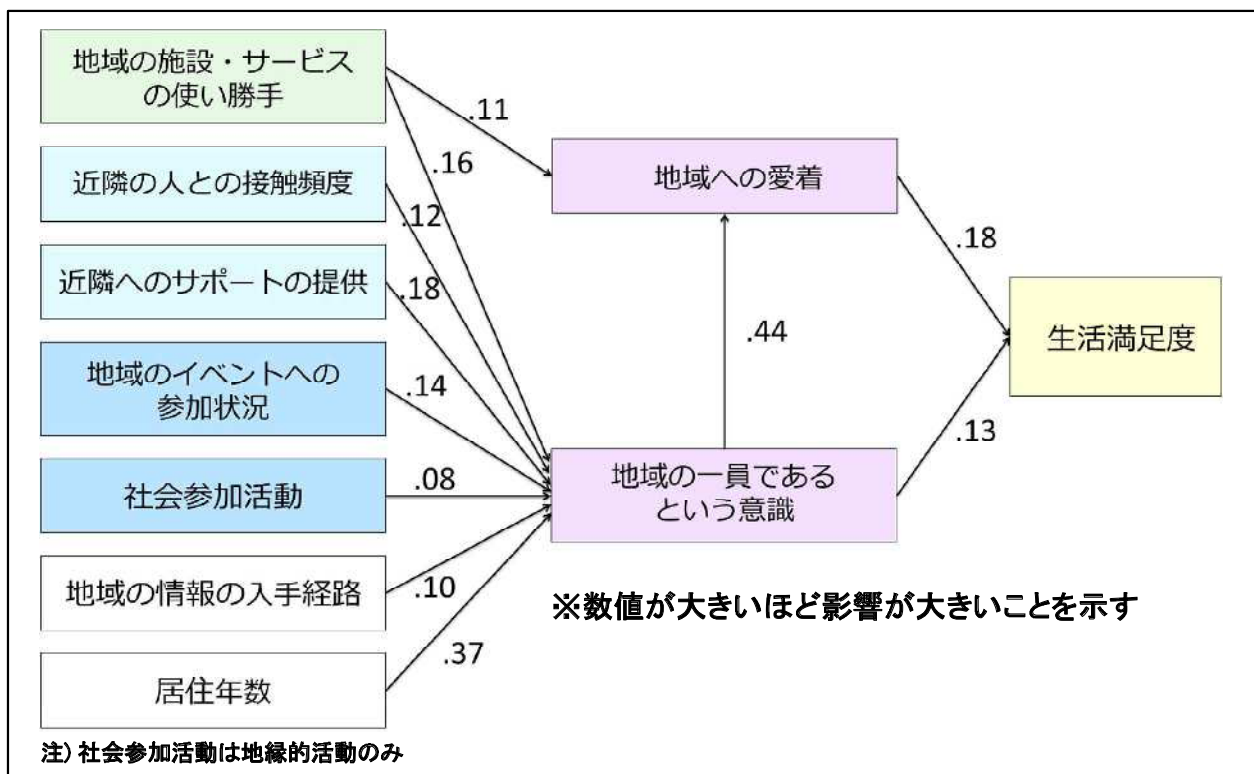
出典：東京大学文学部社会学研究室による調査結果

【調査結果】

- ・地域信頼が高い人ほど健康に満足している
- ・水平的ネットワーク（ボランティア、スポーツ、趣味などのグループのいずれか）に参加している人ほど、幸福度が高い。

「地域のつながりが豊かな地域をつくる」ということが明らかになりつつある。
12

高齢者における地域環境、社会とのつながりが幸福感に与える影響

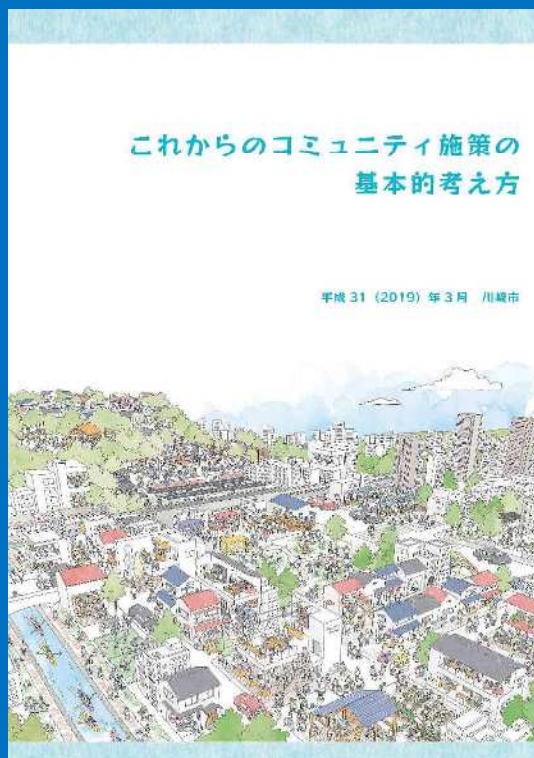


出典：慶應義塾大学高山緑教授らによる調査

これからのコミュニティ施策の基本的考え方とは

社会が複雑化する将来に自分らしく幸せに暮らせる地域社会の実現を目指せるよう、川崎市としての考えをまとめたもの。

『「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成』を基本理念とする。



14

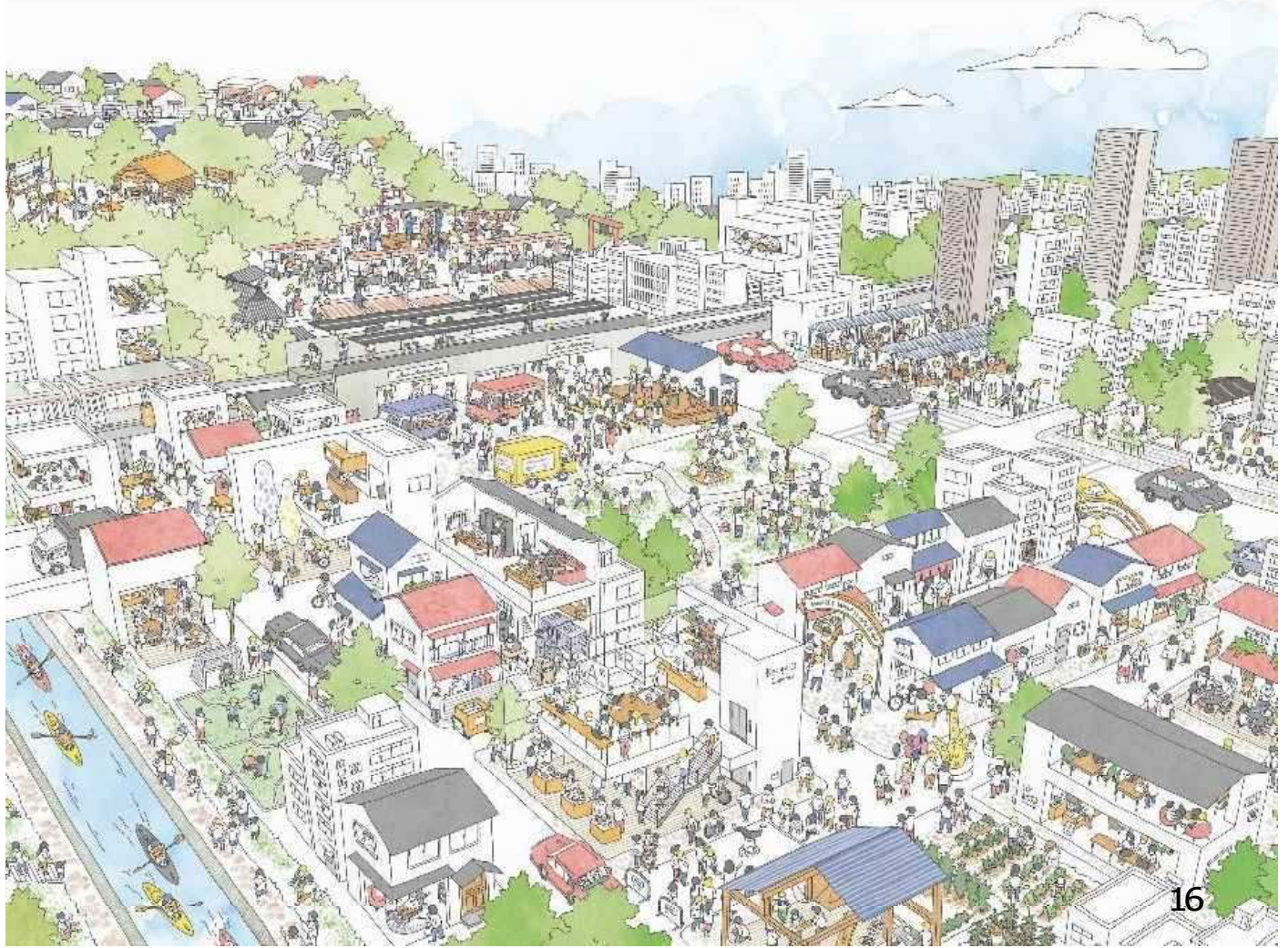
第3章 基本理念と方向性

1 基本理念

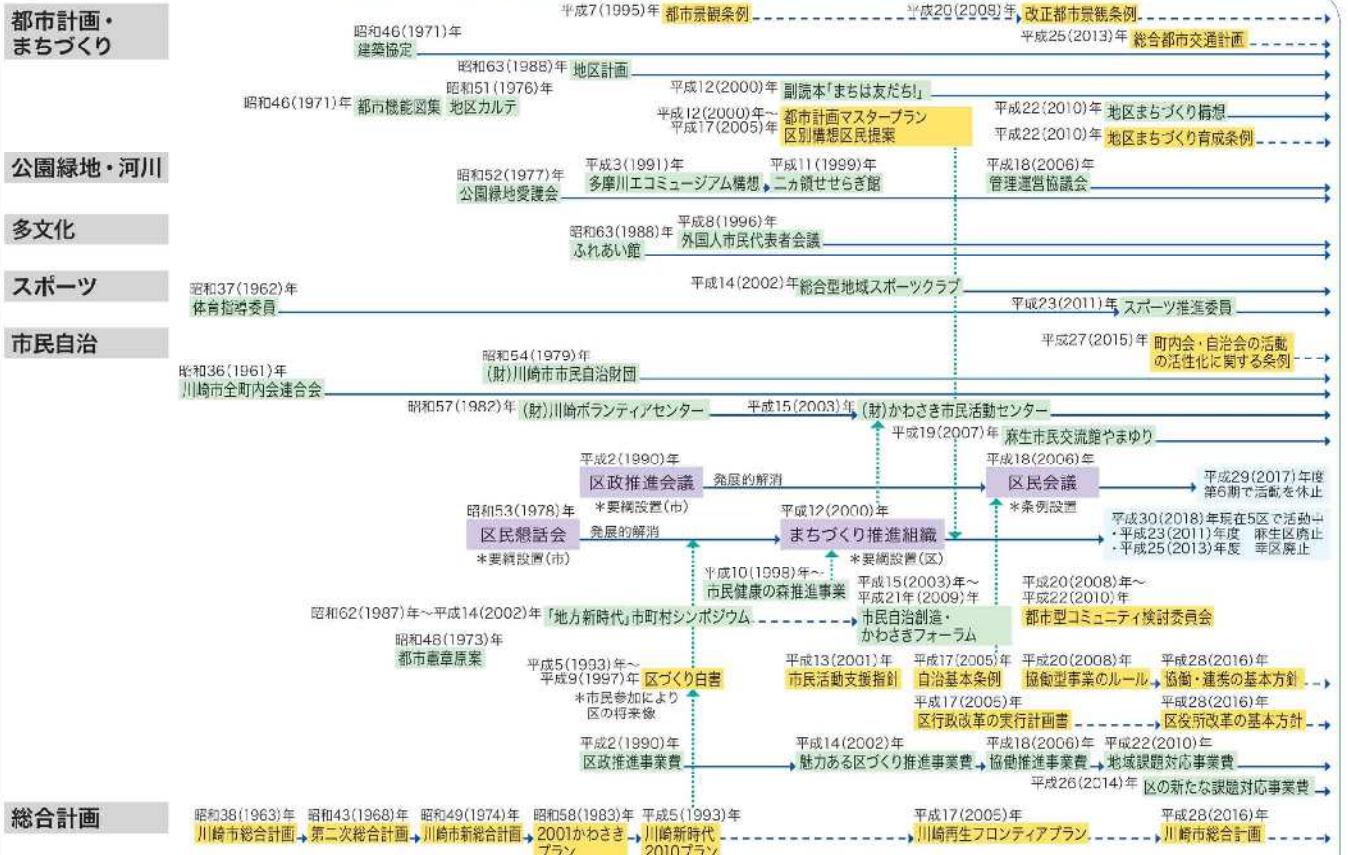
「市民創発」による市民自治と多様な価値観を前提とした「寛容と互助」の都市型コミュニティの形成

市民自治と多様な価値観を前提とし、様々な主体の出会いとその相互作用によって、新たな価値を生み出しながら変化を促し、地域の課題をしなやかに乗り越え、その具体的な解決を導く「市民創発」へのパラダイムシフトにより、多様なつながり（ソーシャルキャピタル）や居場所を創出しつつ、幸福度が高く、誰もが認められる社会的包摂の進んだ持続可能な都市型コミュニティを目指すという将来像を「希望のシナリオ」として掲げ、その実現に向け、総合的に施策を展開していく。

15



これまでのコミュニティ関連施策の主な経過



「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」策定過程

平成29年度 (2017年度)	市民参加・意見聴取等	庁内検討
4月	「川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会」報告書に基づき、検討	
5月		第1回区総合行政推進会議 5月16日(火)
6月	「川崎市共に支え合う地域づくり検討委員会」報告書を踏まえた今後の検討について	
7月		企画調整連絡会議 8月1日(火) 政策・調整会議 8月7日(月)
8月		「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」検討方針
9月	かわさき市民アンケート (市民自治の実態について) 有効回収数1,500標本	
10月	各区区民会議委員への区民会議 休止に関する説明 (各区区民会議 全体会議及び専 門部会等へ全 11回)	庁内検討部会準備会(課長級) 10月24日(火)
11月	まちづくり推進 組織関係者による ワークショップ (全3回) ・11月6日(月) ・11月27日(月) ・1月17日(水) 述べ123名参加	庁内検討会議準備会(部長級) 11月2日(木)
12月	区民会議委員へのアンケート調査 回答者数185名	町内会・自治会 アンケート 有効回答件数 493件
1月		
2月	区民会議意見交換会 2月2日(金) 42名参加	第1回庁内検討部会(課長級) 2月22日(木)
3月		第1回庁内検討会議(部長級) 3月8日(木)

平成30年度 (2018年度)	市民参加・意見聴取等	有識者会議	庁内検討
4月			第1回区総合行政推進会議 4月20日(金)
5月	町内会・自治会との意見交換会 ・5月9日(水) 中原区 ・6月13日(水) 麻生区 ・6月18日(月) 幸区 ・6月27日(水) 宮前区 ・7月5日(木) 川崎区 ・7月6日(金) 高津区 (高津地区)	第1回有識者会議 5月28日(月)	第1回庁内検討部会(課長級) 6月27日(水) 第1回庁内検討会議(部長級) 7月5日(金)
6月			
7月	・7月10日(火) 多摩区	第2回有識者会議 7月9日(月)	コミュニティ施策意見交換 会兼第2区総合行政推進 会議 7月17日(火) 職員ワークショップ 7月23日(月)
8月	市民検討会議WSの開催 ・8月4日(土) 中原区 ・8月5日(日) 宮前区 ・8月18日(土) 麻生区 ・8月19日(日) 高津区 ・9月8日(土) 多摩区 ・9月15日(土) 川崎区 ・9月16日(日) 幸区 延べ210名参加	第3回有識者会議 8月3日(金)	
9月		第4回有識者会議 9月13日(木)	第2回庁内検討部会(課長級) ※次期時に意見交換会を実施 10月23日(火)
10月		第5回有識者会議 10月3日(水)	第2回庁内検討会議(部長級) 10月26日(金)
11月	パブリックコメント等への出 展の実施 説明会 ・11月19日(月)・1月2日(金) ～1月4日(日)～		企画調整連絡会議 10月31日(水)
12月	全市シンポジウム 12月9日(日)		第3回区総合行政推進会議 兼政策・調整会議 11月6日(火)
1月		第6回有識者会議 1月29日(火)	第3回庁内検討部会(課長級) 2月26日(火) 第3回庁内検討会議(部長級) 3月7日(水)
2月	区ごとに市民創発型の 新たなしくみづく りに向けた取組 (ワークショップ、意 見交換会など)		企画調整連絡会議 3月14日(木)
3月			第4回区総合行政推進会議 3月19日(火) 政策・調整会議 3月22日(金)

川崎市コミュニティ施策検討有識者会議

コミュニティ施策の基本的考え方およびコミュニティ施策の基本的考え方に基づく施策推進の進捗状況に関し、学識経験者による市民意見の整理や専門的知見から助言をいただくために有識者会議(懇談会)を設置しました。

氏名	肩書
小島 聡	法政大学人間環境学部教授
後藤 純	東京大学高齢社会総合研究機構特任講師
谷本 有美子	公益社団法人神奈川県地方自治研究センター理事・研究員

(50名)

【第1回】

日時 平成30(2018)年5月28日(月)午後4時30分～7時00分

- 議事 1 これまでの経緯と今後の進め方
2 コミュニティ施策の目指すものについて
3 個別の項目(3つの施策)について
(1) 区域レベルのこれからの中間支援機能について
(2) 地域レベルの居場所づくり・プレイスメイキングについて
(3) 町内会・自治会について

【第2回】

日時 平成30(2018)年7月9日(月)午後4時00分～6時40分

- 議事 1 議事録の確認および前回の論点整理と対応について
・前回議事録の確認
・これまでのコミュニティ施策の経過と地域の現状と課題
・「(仮称)今後のコミュニティ施策の基本的考え方」を考えるにあたって
2 地域レベルの居場所づくり・プレイスメイキングについて
3 区域レベルにおけるプラットフォームの機能について

【第3回】

日時 平成30(2018)年8月3日(金)午後1時30分～4時30分

- 議事 1 議事録の確認及び前回の論点整理と対応について
2 町内会・自治会に関するコミュニティ施策について
3 マンションコミュニティに関するコミュニティ施策について
4 市域レベルのコミュニティ施策について

【第4回】

日時 平成30(2018)年9月13日(木)午後3時00分～5時30分

- 議事 1 市民検討会議ワークショップ(8月開催分)の報告について
2 議事録の確認及び前回の論点整理と対応について
3 既存施策の方向性について
4 「今後のコミュニティ施策の基本的考え方」(素案)の骨子案について

【第5回】

日時 平成30(2018)年10月3日(水)午後4時00分～6時30分

- 議事 1 市民検討会議ワークショップの報告について
2 議事録の確認及び前回の論点整理と対応について
3 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」(素案)について



【第6回】

日時 平成31(2019)年1月29日(火)午前9時30分～11時30分

- 議事 1 全市シンポジウムの報告について
2 パブリックコメントの報告について
3 「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の策定に向けて

市民検討会議ワークショップ

「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」について、有識者会議における意見聴取と並行して、各区でワークショップ形式の市民検討会議を開催し、そこで出た意見等を反映させました。

	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
開催日	9/15	9/16	8/4	8/19	8/5	9/8	8/18
開催場所	unicourt	新川崎タウンカフェ	中原区役所会議室	にこぶら新地	宮前区役所会議室	多摩区役所会議室	麻生区役所会議室
参加者	35名	25名	30名	26名	34名	30名	30名

- グループワーク ①「どうなったらいいと思う10年後の地域の姿」を話し合おう
②「どうなったらいいと思う10年後の地域の姿」を表現させるためのアイデアを出し合おう
など

当日の様子



全市シンポジウム「希望のシナリオ」～これからの地域づくりを考える～

これまでの取組を振り返るとともに、市長スピーチによる「なぜ、いまコミュニティなのか」、そして、「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」の提案を紹介し、意見交換を行いました。

日時：平成30(2018)年12月9日(日)
第一部13:30～16:50 第二部17:05～18:15

場所：エポックなかはら7階大会議室

参加者：91名

プログラム：①これまでの取組の振り返り
②市長スピーチ ～なぜ、いまコミュニティなのか～
③「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」(案)の説明
④区ごとの意見交換タイム
⑤全体意見交換会

当日の様子



「基本的考え方」に基づく現時点の主な施策

「まちのひろば」
への支援

ソーシャル
デザイン
センター

町内会・自治会
支援

地域デザイン
会議

川崎市役所
の意識改革

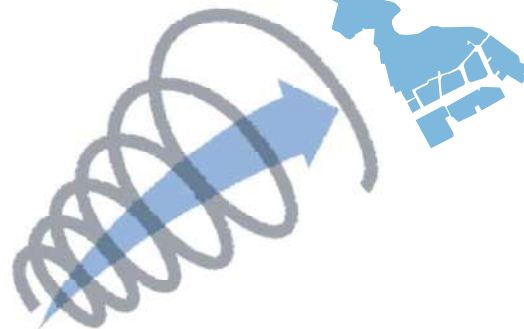
◆「市民創発」とは



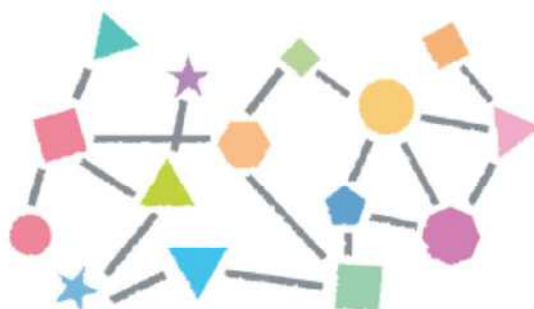
■「市民創発」のイメージ



他者との出会い・共感の連鎖反応 ⇒ 変革へ



連続する動的変化



自由で対等なネットワーク

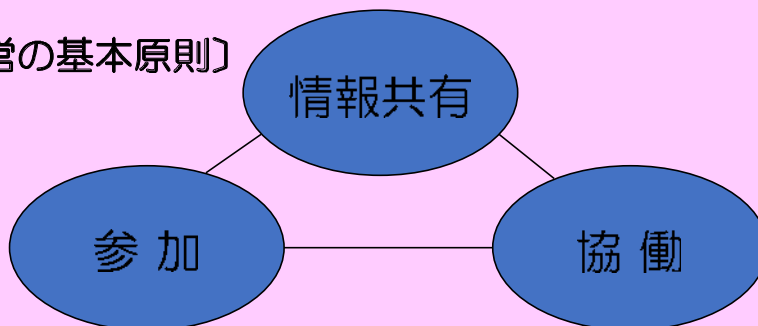
22

Point

【川崎市自治基本条例】

市民が主役の市民自治を確立するため、自治の基本理念を明らかにし、自治を営むための3つの基本原則を定めています。

〔自治運営の基本原則〕



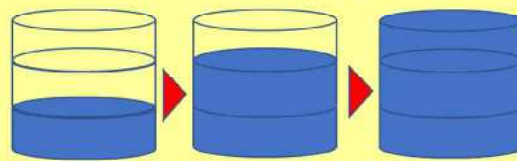
川崎市自治基本条例に基づくこれまでの取組を深化させ、この「基本的考え方」を踏まえ、新たに「市民創発」という考え方を共有し、より複雑化する地域課題に対応していきます。

23

Point

最初に枠組を定めて、それに合わせるように予算や機能を当てはめるのではなく、まずはスモールスタートで始める中、トライアンドエラーで様々な必要な要素を組み合わせ、余白のデザインを残しつつ、試行錯誤しながら大きな形をめざします。

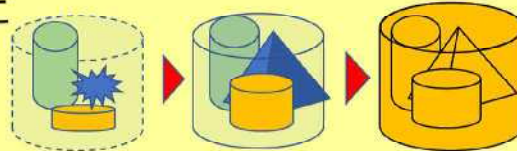
• これまでの行政手法



3年間で段階的に整備する

- ・計画的に進行
- ・硬直的・安定感
- ・先が見通せる
- ・きっちり感
- ・行政主導で実施

• 今回のやりかた



仮に結果は同じでも、プロセスは異なる

スモールスタート & トライアンドエラー

- ・計画性が低い
- ・流動的・不安定
- ・先行き不透明
- ・ワクワク感
- ・自分たちで創造

24

「まちのひろば」とは？

「まちのひろば」とは、誰もが気軽に集まれ、多様なつながりを育む地域の居場所のこと。

身近なところに「まちのひろば」が沢山できるとで、課題解決や健康づくり、支え合い等につながるため、未来の川崎市に必要なものと考えています。



25

「まちのひろば」は特別なものではない！？



素敵なまちのひろば紹介／えんくるのケース

コミュニティスペース「えんくる」は、人と人がつながり、子どもたちや若者たち、地域の人たちが生きやすいまちづくりの拠点となることを目指している場所です。

【主な活動】

- 1 たまりばフードパントリー（フードドライブ）
- 2 えんくる食堂（地域食堂）
- 3 コミュニティスペース



ソーシャルデザインセンターとは？

多様な主体の連携により、地域での様々な新しい活動や価値を生み出し、社会変革（ソーシャルイノベーション）を促す基盤（プラットフォーム）のこと。

【考えられる主な機能】

- ・人や団体、企業、資源、活動をつなぐコーディネート機能とプロデュース機能
- ・支援のニーズとメニューの効果的なマッチング
- ・地域課題の解決を目指した社会実験の展開
- ・地域からの視点や市民の立場に立ち、助言や専門的知識を活かした技術的支援、課題提起等を行う機能
- ・人材育成 ・「まちのひろば」への支援 ・情報の受発信
- ・新たな参加、交流のきっかけづくり
- ・各区の特性に応じて必要とされる機能 など

28

ソーシャルデザインセンター創出に向けた方向性

市民主体の運営を理想とし、区ごと独自のやり方で創出する。



29

地域デザイン会議の方向性

これまでの区民会議のリニューアルに向けて、それぞれの区に地域デザイン会議を設けて試行実施に取り組んできた。

⇒試行実施を踏まえ「川崎市地域デザイン会議運営指針」を策定し、令和6年度から本格実施を開始予定。

【取組の方向性】

- ① より多くの市民が関わり参加しやすい機会の拡充
- ② 弾力的に運用できる柔軟なしくみ
- ③ 地域コミュニティにおける支えあう関係づくりと、市民創発型の課題解決を推進

いわゆる「会議体」から…

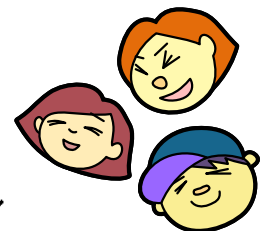


柔軟で様々な場へ参加の場へ

30

川崎市コミュニティチャンネルのご紹介☆

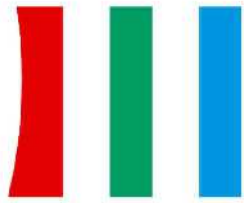
- ・わかりやすさ！楽しさ！手作りの温かさ！をコンセプトに、地域の様々なつながりや、コミュニティ施策に関する情報を発信中。
- ・職員自ら取材／編集／出演しているだけでなく常にチャレンジングな企画を配信している。



チャンネル登録
お願いします！



31



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

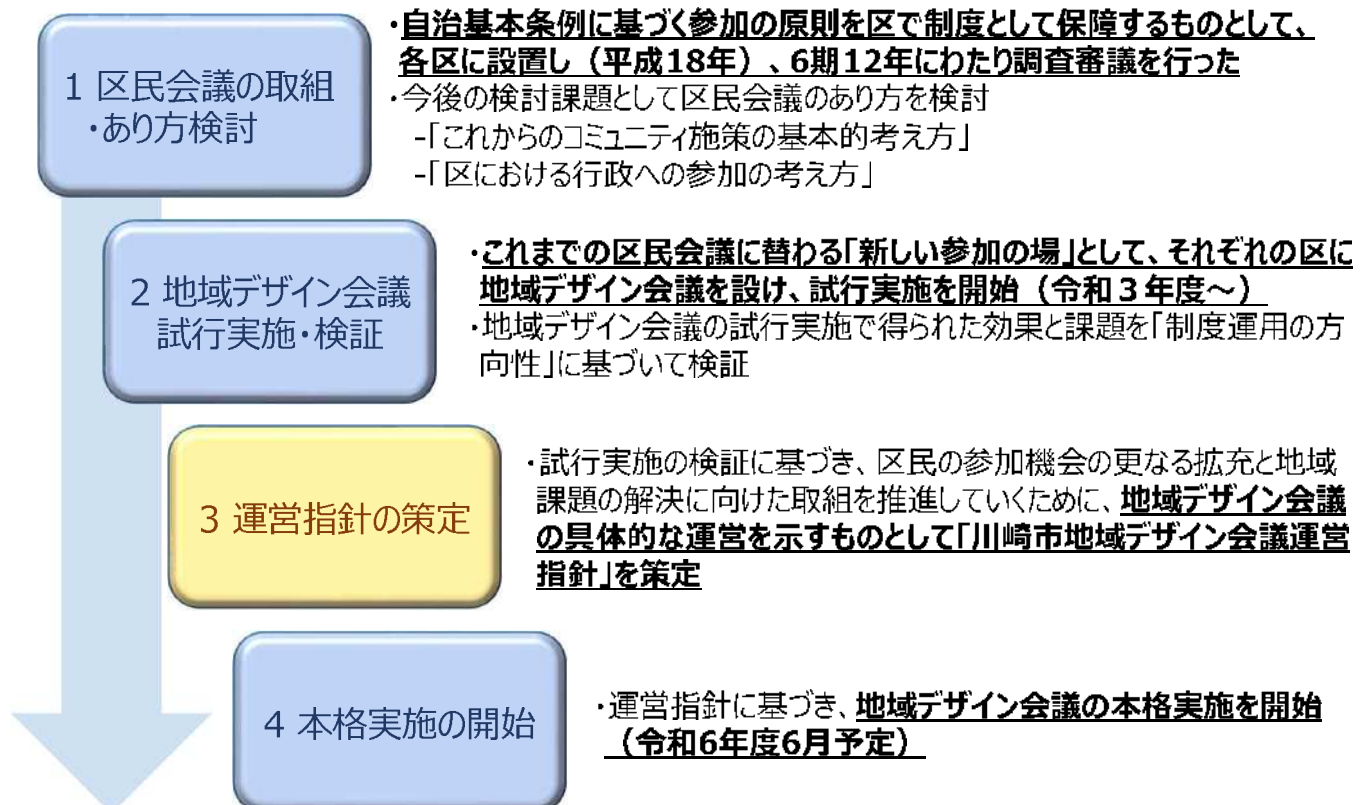
COLORS,
FUTURE!
ACTIONS
KAWASAKI 100th

川崎市地域デザイン会議運営指針(案)について

川崎市市民文化局コミュニティ推進部区政推進課
和田 一晃

1

これまでの経過と今後の進め方



2

1-1 区民会議の取組

○位置づけ

暮らしやすい地域社会をめざして、参加と協働により、区における地域社会の課題の解決を図るための調査審議を行う市の附属機関として各区に設置

○構成

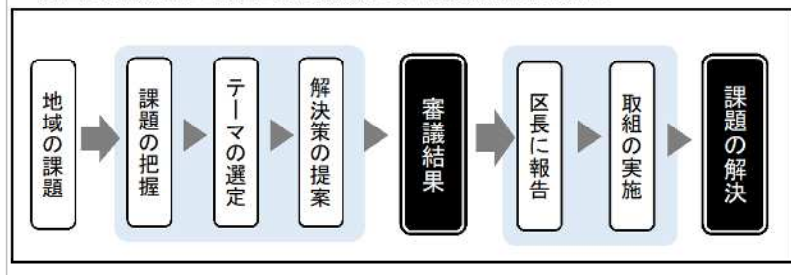
- ・委員…各分野から団体推薦・公募・区長推薦の委員20人以内、任期2年で組織され、市が委嘱
- ・参与…市議会議員、県議会議員は、選挙区とされる区の区民会議に参与として出席することができ、話し合いの場で必要な助言を行う

○所掌事務

区における地域社会の課題を把握し、その解決を図るための方針及び方策について調査審議を行い、また、提案や提言にとどまらず、課題解決の取組を実践するなど、課題解決の機能も果たしてきた。

<旧区民会議>

旧区民会議を通じた参加と協働による課題解決の流れ



3

1-2 区民会議のあり方検討

【アンケート結果】（第6期委員及び委員経験者（第1～5期委員長、副委員等））

成果	課題
<ul style="list-style-type: none">・<u>地域課題の抽出</u>・<u>区や地域へ興味をもつきっかけ</u>・<u>団体や個人との交流</u>・地域活動への参加のきっかけ・参加と協働によるまちづくりを実感・課題解決に向けた取組・提言が行政に反映されて市民生活がよかった・様々な人と知り合い、ネットワークができた・区の魅力や課題を知ることができた・行政への参加 など	<ul style="list-style-type: none">・他の会議との重複感があった・委員構成に偏りがあった・審議テーマに興味がなかった・回数が多くて負担だった・課題が区民に届かない・課題が偏りがち（テーマが似る）・意見の敷居が高い・楽しいことを言える雰囲気でない・任期があり課題解決まで見届けられなかった・提言が実践に結びつかなかった など

○「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」（平成31（2019）年3月策定）

これまでの区民会議の「参加と協働による地域の課題解決」の機能は、「新たなしくみ」に引き継がれるとともに、「区における行政への参加」の機能について、区民の多様な意見を反映する制度のあり方について検討するとした。

○「区における行政への参加の考え方」（令和3（2021）年5月策定）

これまでの区民会議の課題等を踏まえ「新しい参加の場」に関する制度運用の方向性を示した。

⇒令和3（2021）年11月から、これまでの区民会議に替わる「新しい参加の場」として、各区に地域デザイン会議を設け、試行実施を開始

4

2-1 地域デザイン会議 試行実施の取組

各区における地域デザイン会議試行実施の内容

各区地域デザイン会議の試行実施（令和3年度～令和5年度）では、参加と協働による地域課題の解決に向けて、多くの区民の参加により様々な取組を行いました。

【東区】

「多様な主体が参加する持続可能な公園等の維持管理と利活用の取組」

- 万福寺おもしろ公園で公園管理団体、町内会・自治会、地元企業などが主体となり、地味住民を巻き込みながら、公園の維持管理と利活用を体験できるイベント及び会議を一体で開催。
- 参加者は草刈りや花植えを行った後、木工作、押し花のしおり作り、たねだんなどを体験。
- 地域の多様な主体が、公園の維持管理や利活用の取組を知って、参加を拡充させていくことに向けて意見交換。

「『新百合ヶ丘駅周辺の公園等を有効活用した活動のまちづくり』」

【多摩区】

「多摩区におけるソーシャルデザインセンターの今後のあり方を考える」

- 多摩区ソーシャルデザインセンターの関係者、地域活動を行っている団体等が参加しソーシャルデザインセンターの活動を振り返り、今後の多摩区におけるソーシャルデザインセンターの望ましいあり方について意見交換。
- 意見を踏まえ、多摩区ソーシャルデザインセンターにおいてのソーシャルデザインセンターに係る取組の今後のあり方」を策定。

「公園緑地を支える区民協働の取組」

- 公園管理団体、公園で活動する団体、地域のボランティア団体など多様な主体や幅広い世代が参加し、維持管理へ参加を促すアイデアを意見交換。
- 会議でのアイデア等を基に、公園を支える取組を広げるツールとして、「公園の維持管理のためのおたすけハンドブック」を作成、関係団体へ配布。

「その他のテーマ」

- 「地域の課題のつながりを広げ、もっと住みやすいまちへ～様々な立場の人が一緒に取り組めるまちづくり～」

【中原区】

「市民参加型まちづくりの実現に向けて」

- 日ごころ地区コミュニティの拠点を持つ約10代～60代が参加。
- 富士通株式会社と協働で事務所運営を担い、ITツールを市民と地域との接点づくりに活用できないかという視点で議論。
- 会議では、地域コミュニティとの接点が少ない市民の日常生活へのニーズなどを把握し、ITを活用した地域と接点をもつための広報・広聴モデルに対する意見を聴取。

「マチカドプロジェクト」として、武蔵小杉駅周辺にタッチパネル型のデジタルサインを設置し、クイズやアンケートに回答してもらうことで、まちへの興味・関心について市民意見を聴取。継続して気軽に地域と関わる手法について検討。

「その他のテーマ」

- 「災害時の準備がマップ作りワークショップ～自主防災組織だけでなく多様な主体が参入～」

【葛飾区】

「公共施設の地域化に関する検討」

- 「公共施設の地域化」の実現と併発、公園や公民館市民広場でのイベント活用に向けた検討を行い、「まちのひろば」創出に向けた議論を行った。
- 公園の活用では区民グループと町内会が公園着床型に実施したマルチエ事例を基に課題等を整理し、「京都市における物販を伴うイベント等に関する公開利用ガイドライン」を策定。

「交差点市民広場の活用では、地域と行政で構成する「京都市役所市民広場活用検討委員会」を結成して立ち上げ、市民団体によるマルチエやキヤンパルナイトイベント等を開催。地域住民の交流、つながりの場を継続的に創出。

「その他のテーマ」

- 「『あたり』でつながる高層ビル～あたり×高層ビル～」

【高津区】

「区民の関与型ライフスタイルへの行動変容の促進（脱炭素アクション）」

- 高校生、大学生を中心に、若者の多様な視点から、楽しみながら届けられる「脱炭素アクション」へのアイデアを意見交換。
- アイデアの具体化に向け、「若者を引きつける脱炭素イベント」をテーマに、地域団体や企業等も加わり議論し、「脱炭素アクションみぞのくち広場」を行った。
- 「自転車乗車」や「ごみ分別クイズ」の体験アースを設け、脱炭素アクションへの関心の引き起こしや、区民一人ひとりの環境配慮型ライフスタイルへの意識の醸成を図り、引き続き行動変容の取組を推進する。

「その他のテーマ」

- 「10年後、20年後も自分らしく暮らすためには？～今から始めるセルフケア・健康づくり～」

【川崎区】

「川崎駅西口を中心とした地域課題を活用したまちの賑わい」

- 大型の文化施設や商業施設を有する川崎駅西口周辺の賑わい創出に向けた取組を進めるため、西口周辺の企業、町内会、商店会等が参加。
- 川崎駅西口エリア一体型のイベントの実現に向け若い世代の意見も取り入れながら具体的な検討を行った。

●実行委員会を組織し、地域の活性化を図る旨とし、「さいわいにぎわいフェス」を実施。地域主体の継続した取組を推進。

「その他のテーマ」

- 「自転車マナーのよいまちさいわい」

【川崎区】

「食料支援を通じたつながりづくり」

- コロナ禍で顕在化した多様な主体の連携による見守り支え合う地域づくりや食料支援の必要性を背景としテーマを設定。
- こども食堂運営団体、中間支援組織、福祉的専門支援を行う行政が課題を共有し、運営団体が安心して活動できる関係づくりを推進。
- 「好きなことや楽しいことで、友人や仲間をつくらせていける地域づくり」
- 区内で地域活動を行う様々な団体が参加し、活動を続ける工夫や支援の必要性について多角的に意見交換を行った。
- 参加者同士がつながる機会とするとともに、参加者からの意見を令和6年度以降のソーシャルデザインセンター本格実施に向けた検討の参考とする。

「外国人住民の地域防災活動への参加を通じた地域とのつながりづくり」

5

【川崎区】

「食料支援を通じたつながりづくり」

- コロナ禍で顕在化した多様な主体の連携による見守り支え合う地域づくりや食料支援の必要性を背景としテーマ設定。
- こども食堂運営団体、中間支援組織、福祉的専門支援を行う行政が課題を共有し、運営団体が安心して活動できる関係づくりを推進。



「好きなことや楽しいことで、友人や仲間をつくらせていける地域づくり」

- 区内で地域活動を行う様々な団体が参加し、活動を続ける工夫や支援の必要性について多角的に意見交換を行った。
- 参加者同士がつながる機会とするとともに、参加者からの意見を令和6年度以降のソーシャルデザインセンター本格実施に向けた検討の参考とする。

【その他のテーマ】

・「外国人住民の地域防災活動への参加を通じた地域とのつながりづくり」

6

【幸区】

「（川崎駅西口を中心とした）地域資源を活用したまちの賑わい」

- 大型の文化施設や商業施設を有する川崎駅西口周辺の賑わい創出に向けた取組を進めるため、西口周辺の企業・町内会・商店会等が参加。
- 川崎駅西口エリア一体型のイベントの実施に向け若い世代の意見も取り入れながら具体的な検討を行った。



- 実行委員会を組織し、地域の活性化を図る目的とし、「さいわいにぎわいフェス」を実施。地域主体の継続した取組を推進。

〔その他のテーマ〕

- ・「自転車マナーの良いまちさいわいへ」

7

【中原区】

「市民参加型まちづくりの実現に向けて」

- 日ごろ地域コミュニティとの接点を持ちづらい層の10代～60代が参加。



- 富士通株式会社と協働で事務局運営を担い、ITツールを市民と地域との接点づくりに活用できないかという視点で議論。

- 会議では、地域コミュニティとの接点が少ない市民の日常生活へのニーズなどを把握し、ITを活用した地域と接点をもつための広報・広聴モデルに対する意見を聴取。

- 「マチカドプロジェクト」と題して、武蔵小杉駅周辺にタッチパネル型のデジタルサイネージを設置し、クイズやアンケートに回答してもらうことで、まちへの興味・関心について市民意見を聴取。継続して気軽に地域と関わる手法について検討。



〔その他のテーマ〕

- ・「災害時の手助けマップ作りワークショップ」
～自主防災組織だけでなく多様な主体で考えよう～

8

【高津区】

「区民の環境配慮型ライフスタイルへの行動変容の促進（脱炭素アクション）」

- 高校生・大学生を中心に、若者の柔軟な視点から、楽しみながら続けられる「脱炭素アクション」へのアイデアを意見交換。
- アイデアの具現化に向け、「若者を引きつける脱炭素イベント」をテーマに、地域団体や企業等も加わり議論し、「脱炭素アクションみそのくち広場」を行った。



- 「自転車発電」や「ごみ分別クイズ」の体験ブースを設け、脱炭素アクションへの関心の引き起こしや、区民一人ひとりの環境配慮型ライフスタイルへの意識の醸成を図り、引き続き行動変容の取組を推進する。

〔その他のテーマ〕

- ・「10年後・20年後も自分らしく暮らすためには？今から始めるセルフケア・健康づくり」

9

【宮前区】

「公共施設の地域化に関する検討」

- 「公共施設の地域化」の実践となる、公園や区役所市民広場でのイベント活用に向けた検討を行い、「まちのひろば」創出に向けた議論を行った。



- 公園の活用では区民グループと町内会が公園清掃後に実施したマルシェ事例を基に課題等を整理し、「宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドライン」を策定。

- 区役所市民広場の活用では、地域と行政で構成する「宮前区役所市民広場活用検討委員会」を試行で立ち上げ、市民団体によるマルシェやキャンドルナイトイベント等を開催。地域住民の交流・つながりの場を継続的に創出。



〔その他のテーマ〕

- ・「“みどり”でつながる宮前区～みどり×落ち葉～」

10

【多摩区】

「多摩区におけるソーシャルデザインセンターの今後のあり方を考える」



- 多摩区ソーシャルデザインセンターの関係者、地域活動を行っている団体等が参加しソーシャルデザインセンターの活動を振り返り、今後の多摩区におけるソーシャルデザインセンターの望ましいあり方について意見交換。
- 意見を踏まえ、多摩区ソーシャルデザインセンターの取組に関して評価・検証、「多摩区におけるソーシャルデザインセンターに係る取組の今後のあり方」を策定。

「公園緑地を支える区民協働の取組」

- 公園管理団体、公園で活動する団体、地域のボランティア団体など多様な主体や幅広い世代が参加し、維持管理へ参加を促すアイデアを意見交換。
- 会議でのアイデア等を基に、公園を支える取組を広げるツールとして、「公園の維持管理のためのおたすけハンドブック」を作成、愛護活動団体へ配布。



【その他のテーマ】

- ・「地域の横のつながりを広げ、もっと住みやすいまちへ
～様々な立場の人が一緒に一層活躍できる環境づくり～」

11

【麻生区】

「多様な主体が参加する持続可能な公園等の維持管理と利活用の取組」

- 万福寺おやしろ公園で公園管理団体、町内会・自治会、地元企業などが主体となり、地域住民を巻き込みながら、公園の維持管理と利活用を体験できるイベント及び会議を一体で開催。



- 参加者は草刈りや花植えを行った後、木工作、押し花のしおり作り、たねだんごなどを体験。
- 地域の多様な主体が、公園の維持管理や利活用の取組を知って、参加を拡充させていくことに向けて意見交換。



【その他のテーマ】

- ・「新百合ヶ丘駅周辺の公園等を有効活用した協働のまちづくり」

12

2-2 制度運用の方向性に基づく試行実施の検証

(1)市民意見の聴取

試行実施の取組を検証するため、地域デザイン会議に参加いただいた方を対象にアンケートを実施した。

○参加者アンケートについて（実施期間：令和5（2023）年7月～令和5（2023）年11月）

●なぜ本日の地域デザイン会議に参加しようと思いましたが

①自身が参加している地域団体に依頼があったから	20.1%
②テーマに興味があったから	16.7%
③自身の仕事や参加している地域活動に関連したテーマだったから	14.6%
④知人・友人に誘われたから	12.5%
⑤地域課題への取組の実践に協力しなかったから	11.8%
⑥テーマに関して課題を感じていたから	9.7%
⑦他の参加者と交流しなかったから	7.6%
⑧地域の課題提案や意見を出しなかったから	4.2%
⑨その他	2.8%

●地域デザイン会議に期待することはなにか

①話し合った結果を実際の取組につなげること	21.3%
②幅広い世代の人が参加できること	20.5%
③地域の課題や話し合いの結果を広く知らせること	19.7%
④地域の様々な活動団体同士がつながりを強め、連携すること	18.1%
⑤より多くの区民の意見を取り入れて話し合うこと	14.2%
⑥活発に話し合い、意見をまとめること	5.5%
⑦その他	0.8%
⑧特にない、わからない	0.0%

●これまで行政が主催する会議に参加したことはありますか

①ある	52.7%
②ない	47.3%

13

2-2 制度運用の方向性に基づく試行実施の検証

○参加者ヒアリングについて

【主な意見・感想】

・実施期間：令和5（2023）年9月～10月
 ・対象者：地域デザイン会議に参加された町内会・自治会、民間企業、地域活動を行う方、大学生

●参加の動機

- ・同じ活動をしている団体の様子を見たいという思いと、横のつながりを作りたいという思いで参加をした。それぞれの団体が自身と似た悩みを抱えていることがわかった。
- ・何か気づきがあるのではないかと思い参加した。他の団体が抱える課題を知ることができ、参加してよかった。

●参加して感じたこと

- ・参加者がみな平等・フラットに話をしているところが良いと思った。
- ・地域課題を解決することは簡単ではない。地域デザイン会議をきっかけに、人と人とがつながるきっかけになればいい。

●参加を通じて得たこと

- ・地域の活性化のために関係者が集い、意見交換をすることによって、関係者同士のつながりが強くなったと感じている。
- ・これまで他人事のように思っていたが、個人でも何かできるのではないかと発想が変わった。

14

2-2 制度運用の方向性に基づく試行実施の検証

(2) 試行実施の検証

【方向性1】より多くの市民が関わり参加しやすい機会の拡充

ア 参加を促すテーマ設定

・テーマの内容によって参加を決めている割合が全体の41.0%あり、テーマ設定が参加の動機につながるということが分かった。

イ 参加を促す募集方法

・参加者のうち、「行政が主催する会議に参加したことがない人」が47.3%を占め、新たな参加の機会となる効果があった。

ウ 様々な参加の形の創出

・地域デザイン会議を通じて、会議の運営やその補助に関わる形、課題解決に向けた取組を協働で取り組む形、会議参加を契機にテーマに関する意識醸成と自主的な取組につなげていく形など、区民の主体的な参加を引き出す参加の形を創出することができた。

【方向性2】テーマに応じて、その都度、弾力的に運用できる柔軟なしくみ

ア 会議の枠組みに関すること

・「ラウンドミーティング型」、「ワークショップ型」、「レクチャーフォーラム型」など、様々な形式を選択した。
・開催方法について、会議やSNSを効果的に活用し、柔軟な方法で参加と協働の取組を推進した。
・開催日時を夜間や休日としたり、会場を区役所に限定せず、参加しやすい日程・会場を設定した。

イ 会議の運営に関すること

・会議の運営に当たっては、テーマを選定した理由や背景、課題解決に向けた取組の状況をわかりやすく説明するなど、区役所が主体となり、参加者が何を期待して参加しているかを意識した会議運営を行った。

15

2-2 制度運用の方向性に基づく試行実施の検証

【方向性3】地域コミュニティにおける支え合う関係づくりと市民創発型の課題解決を推進

ア 地域コミュニティにおける支え合う関係づくりについて

・多様な主体が参加し、テーマに関する現状・課題について幅広く認識し意識醸成する機会となった。

イ 市民創発型の課題解決の推進について

(ア) 課題解決に向けた取組

【具体的な課題解決の取組】

・幸区の川崎駅西口の賑わい創出のためのイベント開催や麻生区の持続可能な公園の利活用や維持管理に向けたイベント開催など、地域課題の解決に向けた具体的な取組を実施した。中原区ではITツールに強みを持つ企業と連携してデジタルサイネージを活用した広報・広聴モデルの取組を実践した。

【長期的なビジョン反映の取組】

・多摩区や川崎区では地域デザイン会議の意見をソーシャルデザインセンターの今後の取組検討の参考とするなど、長期的な視点での区の施策実現に向けた取組を推進した。

【環境づくり・機運醸成の取組】

・高津区では環境配慮型ライフスタイルへの行動変容に向けて、区民、地域団体、企業など多様な主体との連携による機運醸成の取組を推進した。

⇒ 地域デザイン会議における意見交換をもとに、具体的な実行段階まで進めた事例、区の施策などに反映させることにより長期的な課題解決に取り組んだ事例、多様な主体との連携による機運醸成を図った事例など、様々な課題解決に向けた取組につなげることができた。

16

2-2 制度運用の方向性に基づく試行実施の検証

【方向性3】地域コミュニティにおける支え合う関係づくりと市民創発型の課題解決を推進

(イ) 課題解決に向けた連携

【車座集会との連携】

・地域課題の解決に向けて、川崎区、高津区、宮前区、麻生区では地域デザイン会議の取組等を車座集会の広報・広聴機能を生かし発信するとともに、多摩区では車座集会の意見交換から課題を抽出し、地域デザイン会議のテーマとして議論するなど、両者の連携により段階的かつ持続可能な取組につなげることができた。

【各区ソーシャルデザインセンターとの連携】

・多摩区や川崎区では地域デザイン会議の意見をソーシャルデザインセンターの今後の取組検討の参考とするなど、長期的な視点での区の施策実現に向けた取組を推進した。また、各区の試行実施ではソーシャルデザインセンターに関わる区民が地域デザイン会議に参加し、地域からの視点や区民の立場に立った助言や課題提起を行うなど、行政中心ではない民間の地域資源を生かした取組を推進することができた。

【区役所内連携・局区間連携】

・宮前区では地域デザイン会議の議論や取組を踏まえ、企画課と道路公園センターが連携し「宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドライン」を策定した。多摩区では、公園維持管理団体の会合との同時開催など、関係局の緑政事業との連携による参加機会の確保を推進した。

⇒ 車座集会、各区ソーシャルデザインセンター、局区間連携など、**地域課題の解決に向けて、各施策との連携や地域資源の活用により様々な課題解決に向けた取組につなげることができた。**

⇒ **また、テーマに関連する部署との早期の課題認識の共有や、方向性の確認が重要であることを確認した。**

17

3 地域デザイン会議運営指針（案）

(1) 基本的な考え方（取組の方向性）

○大都市における市民自治充実の観点から、身近な区を単位として、「区における行政への参加の場」を制度として保障・充実させるため、引き続き継続的な意見聴取を推進しながら、**より多くの区民が関わり参加しやすい機会の拡充を図る。**

○地域デザイン会議は、一律の枠組みを最初から決めるのではなく、**議題やテーマに応じて、その都度、弾力的に運用できる柔軟なしくみとする。**

○より複雑化する地域課題に対応するため、区役所と局等相互の適切な調整により、**地域コミュニティにおける支え合う関係づくりと市民創発型の課題解決につなげていく。**

(2) 運営指針

ア 地域デザイン会議位置づけ

・川崎市自治基本条例第22条第1項に規定する**区民会議として位置付ける。**

川崎市自治基本条例 第22条第1項

それぞれの区に、区民(その区の区域内に住所を有する人、その区の区域内で働き、若しくは学ぶ人又はその区の区域内において事業活動その他の活動を行う人若しくは団体をいいます。)によって構成される会議(以下「区民会議」といいます。)を設け、参加及び協働による区における課題の解決を目的として調査審議します。

・**附属機関とはせず**、議題やテーマに応じて、弾力的に運用できる柔軟かつ、より多くの区民が参加できるしくみとする。

18

3 地域デザイン会議運営指針（案）

イ 開催主体・開催方法

- ・区域レベルの新たなしくみの一つとして、区役所が主催する。

ウ 議題・テーマの設定

- ・区役所は、地域との様々な対話や意見聴取の機会を通じて地域課題を把握し、区民の参加及び協働により課題解決に向けた取組を進める必要があるものを議題・テーマとして区役所が設定する。

エ 構成メンバー（参加者）

- ・議題やテーマに応じて、構成メンバーや人数などを設定する。
- ・運営にあたっては、会長等の役職は設けず、構成メンバーが対等な立場で意見交換・対話をする場とする。

オ 参加機会の拡充に向けた取組

- ・区役所だけでなく参加者が集まりやすい場所（民間施設・公園・オンライン等）での開催、平日夜間や休日開催など、開催の場所や時期を工夫して設定する。
- ・これまで参加のきっかけがなかった幅広い区民層の参加に向けて、議題・テーマに応じた無作為抽出の採用、既存会議体や地域団体・企業等との連携などに取り組む。また、デジタル技術を活用した参加機会の拡充に取り組む。

カ 会議の運営

- ・テーマ設定の背景・理由、到達目標等を区役所が説明し、参加者同士のつながり作りを意識した内容にするなど、参加者のニーズを踏まえた丁寧かつ柔軟な会議運営に努める。

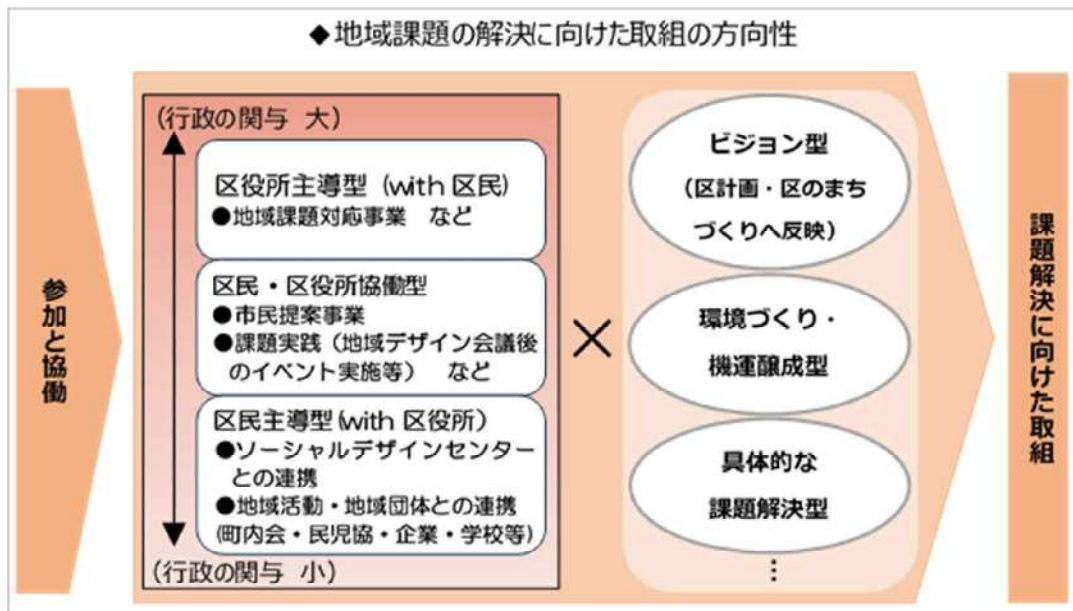
キ 会議の公開

- ・地域デザイン会議は公開とする。

3 地域デザイン会議運営指針（案）

ク 地域課題の解決に向けた取組

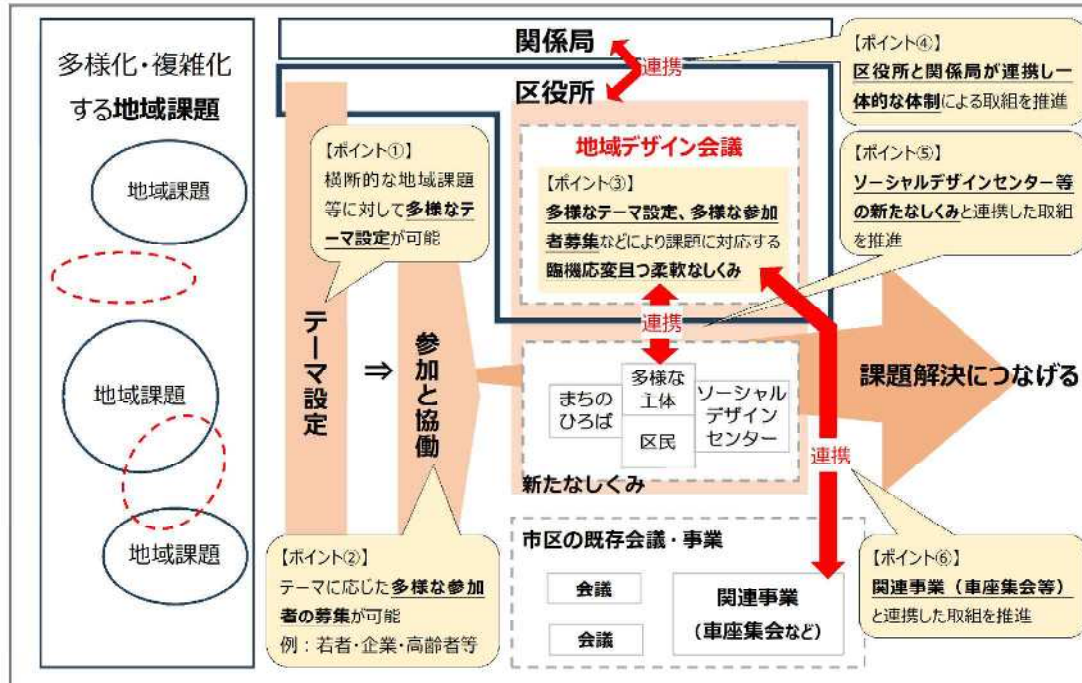
- ・短期及び中長期の進め方を参加者との間で共有しながら検討し、課題解決に向けた取組につなげていく。（「ビジョン型」、「環境づくり・機運醸成型」、「具体的な課題解決型」など）
- ・「区役所主導型」、「区民・区役所協働型」、「区民主導型」など、庁内外の地域資源やリソースを最大限に生かすしくみを活用し、取組の方向性に応じて課題解決に向けた取組につなげていく。
- ・取組に関するプロセスの見える化を図っていく。



4 本格実施の開始

(1) 今後の推進体制（課題対応に向けた連携）

- ・地域デザイン会議の効果の発現に向けて、**区役所と関係局が連携し一体的な体制により取組を推進する。**
- ・区役所は、区民目線に立ち、テーマに関係する区役所と関係局の連携に加え、**各区ソーシャルデザインセンター等の「新たなしくみ」及び車座集会等の関連事業と連携を取りながら、取組を推進する。**



21

4 本格実施の開始

(2) 広報・情報発信（取組の見える化）

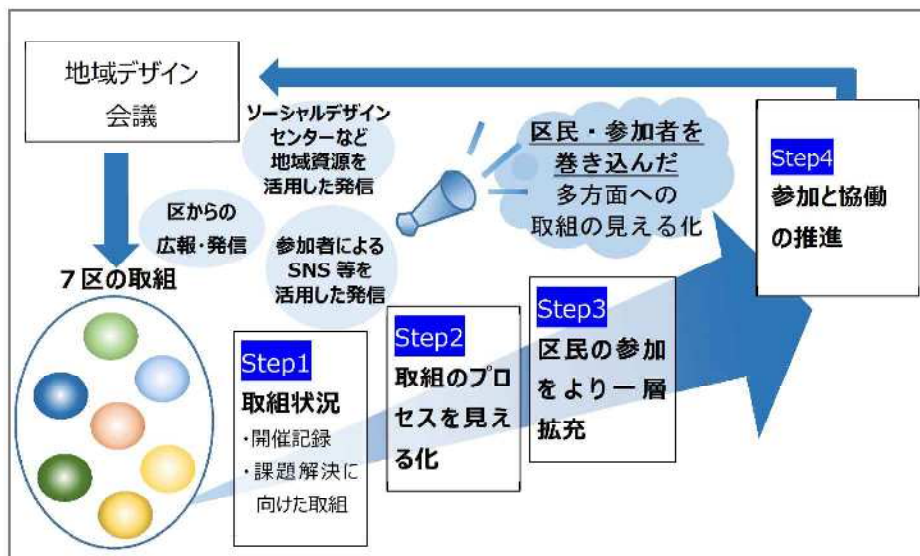
- ・地域デザイン会議の取組（イベント等）について、**区民や参加者を巻き込んだ多方面への取組プロセスの見える化を推進し、参加機会の更なる拡充を図っていく。**

【区からの広報・発信】

- ・**区の有する様々な広報ツールを生かし、多様な年代に働きかけるための効果的な広報・発信を行う。**

【参加者による発信・地域資源を活用した発信】

- ・地域のネットワーク・つながりを生かし区民や参加者を巻き込んだ情報発信を行う。



22

今後の予定



23



ご清聴ありがとうございました



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



24